

セジロウンカの発生量が多い

～発生状況を確認して、幼虫発生盛期に防除してください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) セジロウンカは国内で越冬できないため、長距離移動してきた成虫（図－1）を元に7月～9月中旬頃までに2～3世代発生を繰り返す。
- 2) 秋田市予察ほのネットトラップ調査及びすくい取り調査から、6月24～26日にまとまった飛来があり、初飛来日は平年より20日程度早かった。
- 3) 7月2半旬に実施した抽出ほ場調査（40地点）における成虫のすくい取り数は3.3頭（平年0.1頭）で多く、発生地点率は57.5%（平年6.8%）で高かった（表－1）。発生は沿岸部（秋田市、八峰町、由利本荘市等）を中心に県内で広く確認された（図－2）。また、7月7日の予察ほ（北秋田市、秋田市、大仙市）の粘着板による払い落とし調査において、セジロウンカの幼虫が確認されている（図－3）。
- 4) 7月7日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い、降水量は平年並か多いと予報されている。
- 5) 以上のことから、今後、セジロウンカ第1世代の発生量が多くなることが予想される。

2. 防除対策

- 1) 要防除密度は、1株に中老齢幼虫が15頭以上（粘着板法四株叩き式では幼虫35頭）である。
- 2) 通常、成虫飛来の10日後から幼虫が発生し始め、約3週間後に幼虫発生盛期となるが、気温が高いとこれよりも早まる。
- 3) 要防除ほ場では表－2を参考に直ちに薬剤散布を行う。

3. 資料



図－1 セジロウンカの雌成虫（左）と雄成虫（右）

表－1 抽出ほ場調査（7月2半旬）におけるすくい取り調査結果

	成虫数（頭/地点）	成虫発生地点率（％）
2022	3.3	57.5
平年	0.1	6.8
概評	多	多

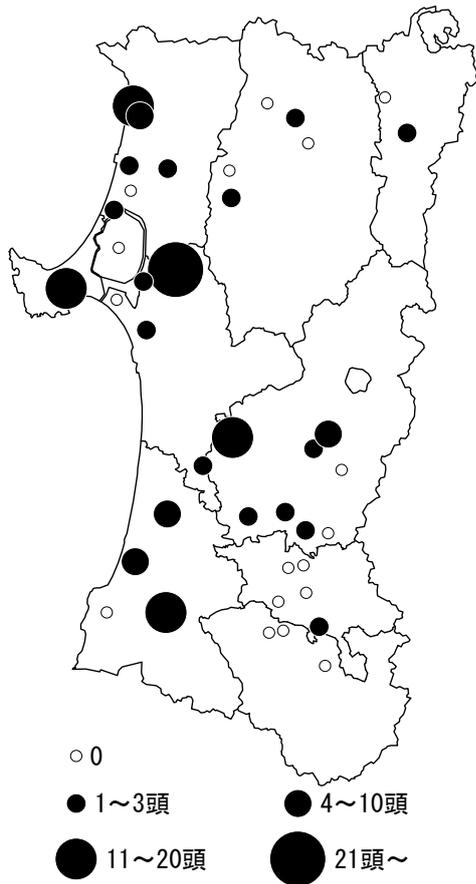


図-2 本田内におけるセジロウンカ成虫のすくい取り数（7月2半旬）



図-3 セジロウンカ幼虫（1齢）

表-2 防除薬剤

RAC コード	農薬名	散布量又は 希釈倍数	散布液量
3 A	トレボン粉剤DL MR. ジョーカー粉剤DL	3 ~ 4 k g /10 a	—
	トレボン乳剤 MR. ジョーカーEW	1,000~2,000倍 2,000倍	150 L /10 a
	アプロード水和剤	1,000~2,000倍	
4 A	アルバリン粉剤DL スタークル粉剤DL	3 k g /10 a	—
	スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10	1,000倍	150 L /10 a
	4 C	エクシード粉剤DL	3 k g /10 a
エクシードフロアブル		2,000倍	150 L /10 a

(1) 注意事項

- ① アドマイヤー箱粒剤、アドマイヤーCR箱粒剤、アルバリン箱粒剤、スタークル箱粒剤、ダントツ箱粒剤の「50 g /箱」の移植当日処理は本種に有効である。

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>